

本資料では、Brava Desktop（下記製品）のライセンス管理形態について説明します。

- ・ Brava Desktop 16.0 （※Brava Desktop 7.3～7.4 含む）
- ・ License Manager 1.1

【ライセンス認証・管理方法】

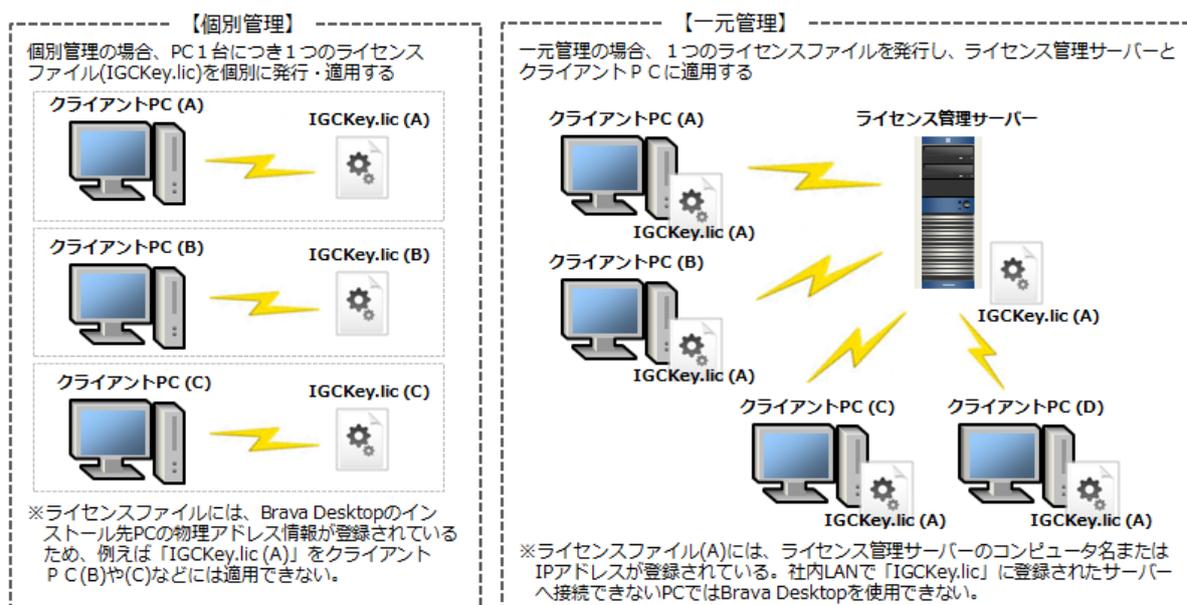
Brava Desktop は下記のいずれかの形態でライセンス管理を行います。

➤ 個別管理

個別ライセンス：1 ライセンスにつき 1 台に対してインストールできます。PC 個別にライセンス情報を保持するので、発行したライセンスファイルは、別の PC で再利用できません。

➤ 一元管理

ネットワークライセンス：サーバー側でライセンス情報を管理し、クライアント PC で使用する Brava Desktop に対する認証を制御します。発行されるライセンスファイルは 1 ライセンスにつき 1 つであり、ライセンス管理サーバー（ライセンスマネージャ）とクライアント PC で共通のライセンスファイルを使用します。Brava Desktop を起動して 1 ライセンスを占有することを本資料では「1 シートを消費する」と表現しています。消費できるシート数は、購入したライセンス数と同一数です。



個別管理は、1 ライセンスから購入する場合に選択します。2016年8月以降は、1件の新規注文につき、1つのPIN Number（お客様ライセンスの保守サポート番号）が発行されます。

また、PC1台につきライセンスファイルが1つ発行される仕組みであり、発行されたライセンス

ファイルをどの PC に適用したのか把握する必要があります。そのため、個別管理は、導入ライセンス数が少ない場合やインストール先 PC がネットワーク接続できない場合の運用に適しています。なお、ライセンスファイルの適用先情報（PIN Number とインストール先 PC <物理アドレス> の紐付け情報）については、お客様側で管理する必要があります。

一元管理は、「ライセンスマネージャ」を使用して複数ライセンスをまとめて管理できます。導入規模が大きく各 PC がネットワークに常時接続可能な場合は、一元管理の方が運用に適しています。購入したライセンス数（シート数）分の Brava Desktop を使用できます。

	発行ライセンスファイル数	ネットワーク接続	導入規模
個別管理	クライアント PC 台数分	不要 ^{※1}	小規模向き
一元管理	1 本	必要	大規模向き ^{※3}

※1 シート固定ライセンスは 10 ライセンスから、同時使用ライセンスは 5 ライセンスから販売しています。

【ライセンス管理方法の詳細】

個別ライセンスを購入した場合とネットワークライセンスを購入した場合では、発行されるライセンスファイル数やライセンスの管理方法（認証方法）が変わります。

● 個別管理（個別管理ライセンス）

➤ ライセンスファイルの発行数

購入ライセンス数と同数のライセンスファイルが発行されます。

➤ ライセンスの発行方法

ライセンスの新規発行は、オンラインフォームもしくはメールでお受け付けしています。PIN Number と製品インストール先 PC の物理アドレス（MAC アドレス）^{※2}を 1 ライセンスにつき 1 つサポート窓口へお知らせいただきますと、ライセンスファイルを発行いたします。

また、Brava Desktop をインストールした PC の故障やハードウェア入れ替えなどにより、ライセンスを移行する場合は、ライセンス再発行の手続きを行う必要があります。

※2 物理アドレス情報の確認方法 > <http://www.bravaviewer.jp/support/bd/macid.html>

➤ Brava Desktop の使用について

発行したライセンスの適用を含むプログラムのインストールが完了すると、Brava Desktop を製品版として使用できます。

Brava Desktop インストール先 PC を変更する場合は、ライセンスファイルの再発行処理^{※3}が必要になります。再発行のご依頼は、下記の Web サイトで受け付けています。

https://www.bravaviewer.jp/form/brava_licenseissue.html

※3 ライセンスの再発行依頼については、保守サポートサービスに加入されている場合のみ受け付けします。

ライセンス再発行に関する注意点につきましては、下記の Web サイトもご参照ください。

<http://www.bravaviewer.jp/support/bd/license.html>

● 一元管理（ネットワークライセンス）

一元管理を選択する場合、Brava Desktop の製品版ライセンスに加えて、ライセンス管理用プログラムの「ライセンスマネージャ」の導入が前提となります。

ライセンスマネージャは、クライアント PC から常時アクセスが可能な Windows マシン上（ライセンスサーバー）にて、Windows サービスとして稼働します。ネットワークライセンスの管理形態として、下記の 2 種類をご用意しています。製品購入時に、どちらのネットワークライセンスを購入するか決める必要があります。

(1) 同時使用ライセンス

不特定多数のユーザー間で購入数分のライセンスを共有するライセンスです。

(2) シート固定ライセンス

1 ユーザーアカウントに対して 1 ライセンスを割り当て、購入数分の上限まで使用できます。

➤ ライセンスファイルの発行数

本ライセンスの場合、ライセンス購入数に関係無く **1つのライセンスファイル**を発行します。ライセンスマネージャでのライセンスのインポート処理及び各クライアント PC への Brava Desktop インストール処理を行う際は、全て同一ライセンスファイルを使用します。ライセンスの消費状況は、ライセンスマネージャにより自動的に管理されます。

➤ ライセンスの認証方法

本ライセンスを適用したクライアント PC では、プログラム起動時やファイル読み込み時にネットワーク経由でライセンスマネージャに対する認証処理が行われます。認証が成功すると、サーバー側では認証情報としてプログラム使用時の Windows ログインユーザーアカウント情報（ユーザー名@ドメイン名）が登録されます。（ワークグループの場合は コンピュータ名¥ユーザー名 形式です。）

「シート固定ライセンス」の場合、各クライアント PC のユーザーアカウント情報がライセンスマネージャに登録され、登録されたユーザー情報であれば、2 回目以降の Brava Desktop の使用

が自動的に許可されます。

購入したライセンス数以上のユーザーアカウント情報はライセンスマネージャに対して登録できません。そのため、ライセンス認証の最大数を超過後はライセンス未認証のクライアント PC で Brava Desktop を使用することができません。

ライセンス数の上限に達した場合は、ライセンスマネージャで登録済みのユーザーアカウント情報を削除することで、新たなユーザーアカウント情報を認証できるようになります。

「同時使用ライセンス」の場合、Brava Desktop をインストールできる台数に上限はありません。

購入したライセンス数の範囲内で Brava Desktop を同時に使用できます。

ライセンス上限に達している状況下で、認証済みユーザーが Brava Desktop を終了すると消費されたシート分の認証情報が解放され、1 シート分使用できるようになります。

また、事前に特定ユーザーアカウントに対して 1 シートを予約することも可能です。

➤ Brava Desktop の使用について

ライセンスマネージャを導入した環境では、Brava Desktop 上でファイルを開く度にライセンスの確認が行われるため、各クライアント PC は常時ネットワークに接続されている必要があります。

ライセンス発行時に登録するコンピュータ名または IP アドレスを使用してサーバー・クライアント PC 間のライセンス確認処理が行われるので、ライセンスサーバーに本登録情報でネットワーク接続できない PC 上では Brava Desktop を使用できません。

ライセンス管理の詳細な使用方法については、ライセンスマネージャのユーザーズガイドやヘルプファイル（英語）を参照してください。

以上